

年報『アトックス技報』No.3 2011 を発行いたしました

社外の方々に弊社における技術開発の状況を広く知っていただきたく、技術開発・試験の成果などをとりまとめた年報『アトックス技報』No.3 2011 を、このたび刊行いたしました。

『アトックス技報』には、現場に密着した技術開発、独自・将来技術の自社開発や試験などの成果、及び技術開発センターなどのトピックスや技術情報を、関係者の皆様のご理解とご協力をいただいで公開しております。

第3号の刊行にあたっては、東日本大震災からの復旧・復興に向けてのアトックスの取り組みを含めて、弊社の取締役社長矢口敏和よりご挨拶させていただきました。

今号では、東日本大震災からの復旧・復興に向けての弊社の技術的取り組みの一端をご紹介しますため、昨年度までの技術開発成果に加えて、以下の2テーマを速報として報告しております。

- ☆ 天然ゼオライトのセシウム吸着特性試験
- ☆ 環境修復に係る除染試験

多くの方々に本技報をご覧いただき、ご意見をいただければ幸いに存じます。今後も毎年継続して発行し、技術開発成果を発信してまいります。

本技報をご希望の方は、弊社までご連絡ください。

なお、「アトックス技報」は、国立国会図書館法（昭和23年法律第5号）により、国立国会図書館に創刊号（No.1 2009、平成22年1月発行）より納本しています。

同館ホームページ上の『日本全国書誌』や『NDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）』にその書誌データが掲載されており、NDL-OPAC トップページの一般資料から和雑誌新聞の検索を行い申込みことにより、「アトックス技報」を創刊号より利用することができます。



		巻頭言	Preface
	頁/Page		
	1		東日本大震災からの復旧・復興に向けて アトックス一丸となって取り組みます
		研究開発成果	R & D Activities
	2	天然ゼオライトのセシウム吸着特性試験 Cesium Adsorption Characteristics of Selected Natural Zeolite	
	4	環境修復に係る除染試験 Decontamination Examination for the Environmental Remediation	
	6	廃液非排出型電解除染装置の開発 Development of Non-Releasing Liquid-Waste Electrolytic Decontamination Device	
	8	水圧鉄管検査ロボットの開発 Development of Ultrasonic Thickness Measurement Robot for Penstock	
	10	遠隔自走式プラズマ切断機の開発 Development of Remote-Controlled Self-Propelled Plasma Cutting Machine	
	12	ブローブラスト除染工法の開発 Development of Blower Blast Decontamination Method	
	14	使用済NIS検出器充填BF ₃ ガスの安定処理装置の開発 Development of Stable Processing Unit for BF ₃ Gas Enclosed in NIS Detector	
	16	酢酸亜鉛中の微量フッ化物イオンの定量 Analysis of F ⁻ in Zinc Acetate	
		トピックス	Topics
	18	会社組織を改定：福島復興本部を新設、技術開発センターを改組	
	18	福島復興への技術開発センターの取り組み	
	19	環境修復への取り組み	
	19	東北大学「カムランド禅」にキセノン取扱設備を納入	
	19	「原子力デコミッションング研究会」が施設見学会を開催	
		アトックス情報	ATOX Information
	20	ガンマ線照射施設を利用した照射サービス	
	21	照射材料の化学分析技術	
	21	活性炭フィルタ性能評価技術	
	22	登録特許一覧	
	23	特許の紹介	
	24	アトックスの概要	



【表紙の説明】

原子力発電所の熱交換器の解体・廃材処理作業向けに開発した遠隔自走式プラズマ切断機による切断試験状況の写真を図案化しました(技術開発部 材料・化学Gr. 伊藤麻美 制作)。

東日本大震災からの復旧・復興に向けて アトックス一丸となって取り組みます

取締役社長 矢口 敏和



「アトックス技報」第3号の刊行にあたり、ご挨拶申し上げます。

（株）アトックスは、ビルメンテナンスを手がける（株）ビル代行より1980年に分離独立して（株）原子力代行として発足、1993年に商号変更し、昨年2010年に設立30周年を迎えました。

現在では、国内すべての原子力発電所、原子燃料サイクル施設に事業所を設置し、種々のサービスを提供するとともに、原子力研究機関、大学等の放射性物質を扱う施設においても、運転・保守等を支援し、原子力施設のトータルメンテナンス会社として事業を展開しております。

今般の東日本大震災では、地震当日、数多くの当社社員及び協会社社員が被害を受けた福島第一・第二原子力発電所や女川、東海原子力発電所等で働いていました。震災直後こそ当社社員自身が被災したこともあり、一時混乱した時期もありましたが、他事業所の社員や協会社の支援も得て、早い段階から会社を挙げて各被災発電所等の復旧作業に取り組む体制を整えることができました。取り分け福島地区では、4月に福島復興本部を立ち上げ、福島第一原子力発電所を中心に相次ぐ復旧作業の支援要請に積極的に対応してきました。そのなかには冷温停止の鍵を握る汚染水の浄化システムの運転管理業務も含まれます。現在では、福島在住の社員を中心に800人を超える人員が福島地区で復旧作業に従事しています。

当社が現在あるのは言うまでもなく、わが国原子力産業の成長と発展のおかげです。これまでの恩に報いるためにも、今こそ当社は、これまで培ってきた現場力、技術力そして地域密着力を最大限活かし、率先してその復旧・復興に貢献しなければならないと考えています。同時にそのことが、当社の将来を開く唯一の道だという思いを社員全員で共有し、全社一丸となって取り組み、延いては原子力産業に対する信頼回復の一旦を担っていきたく強く願っています。

当社の技術開発センターは1988年の開所以来、電力会社等との共同研究も含め常に現場に密着し、現場で必要とされる技術や工法の開発に力を注いできました。今後は、これまでの成果やノウハウを活かし、福島第一原子力発電所の収束作業や周辺地域の環境修復作業などでこれから必要とされる技術、なかでも、除染やロボットを含むリモートコントロール技術、廃炉関連技術等、現場の課題解決に繋がる技術の開発を最優先テーマとして取り組んでいく所存です。

「アトックス技報」は、当社の技術開発の成果や活動を電力、研究機関等をはじめとするお客様にご紹介するために、関係者の皆様のご理解とご協力を頂いて、2010年1月に第1号を発刊以来、今回で3号目となります。本技報を多くの方々にご覧いただき、ご意見、ご批評を賜れば幸いです。今後とも、皆様のご指導とご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成23年12月吉日